

新型コロナ対策避難所 開設訓練

7月27日（月）に、亀岡市主催の「新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設訓練」に、畑一人自治会副会長、堤邦尋自主防災会長、中澤敏次民生児童委員の3人が参加しました。これを受けて、9月27日（日）馬路町自治会が他の自治会に先駆けて、自治会議員・自主防災会・民生児童委員・行政関係者約40名が参加した訓練を実施しました。

当日の訓練は、避難所における新型コロナウイルス対策として、①「3密：密室・密集・密接」の防止を考慮した避難所設置。②段ボールベッド・パーティション・プライベートルーム等の資機材の組み立てと使用方法。③新型コロナウイルス対策に留意した避難者の受付と誘導。これら三点を主眼とした訓練を行いました。訓練参加者からは、避難者受付所の改善の必要性。介護・介助が必要な高齢者や障害を持った人、妊婦・乳幼児世帯への優先的な対応（検温・問診・誘導等）。運営スタッフに「密集監視員」を加える。円滑な避難所開設には、運営スタッフの養成が不可欠であることから、定期的な訓練が必要である等々、いろいろな意見・感想が寄せられました。

これらの点については、今後の避難所開設訓練、またあつてはいけませんが無事の際にしっかりと活かしていく事とします。

参加者の皆さんの真剣な取り組みに感謝します。大変ご苦勞様でした。（畑一人・堤邦尋）



パーティションづくり



真剣に取り組ましよう



住所と電話番号も書いて！



テントたたむのむずかしいわ！

新型コロナ感染防止対策のいろいろ

自治会活動に伴う感染拡大防止対策として、玄関入り口に消毒液、受付窓口には仕切り板、会議机に飛沫防止仕切り板、会議時のマスク着用、手洗い消毒の徹底、会議・行事参加者への検温器による測定実施等々、コロナ感染防止対策に最大限考慮。何でもかんでも自粛（延期・規模縮小・中止）するばかりでは、地域コミュニティが崩壊してしまうという危機感から、最大限の対策を講じながら出来るだけ自治会活動・行事实施に努めていきたいと考えています。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



アクリルパーティション

新営農組織設立準備委員会 からの報告

新営農組織の設立については、自治会だよりで何回となく報告させていただいていますが、持続可能な馬路町の農地の保全・農業振興、農村環境の保全と活用を図るためには、現在、他地域からも実践力は非常に高いと認められている「営農組合」また「農作業受託組合」ではありますが、任意の団体組織であることから、今後の適切な税制対応、安定した補助金確保の観点から、現組織を発展的に改組して、法人格を有する新たな組織の設立を目指すこととしています。

そのための準備委員会を7月3日に設置。各準備委員さんから現状の課題や対応策について意見を出してもらいながら、京都府農業会議、亀岡市農林課の担当者のアドバイスを頂き、これまで4回の会議を重ねてきました。

一定の協議が進みましたら、まずは農地所有者、現農地耕作者の皆様に協議内容について提案・説明の場を持ち、ご意見ご意向をお聞きするための説明会をさせていただくこととしています。

なお、その間においても、関心をお持ちの方につきましては、ご遠慮なくまずは自治会までご連絡下さい。



人見英作氏「黄綬褒章受章を祝うつどい」

人見英作氏の黄綬褒章受章を祝うつどいが、リーガロイヤルホテル京都において、大槻京都府農業協同組合代表理事理事長、中澤馬路町自治会長等が発起人となり、大坪近畿農政局長、知事代理の前川南丹振興局長、桂川亀岡市長、中川JAグループ京都会長等多数のご来賓・招待客を迎え、コロナウイルス禍に細心の注意を払う中、盛會に開催されました。



人見英作氏からは、「受章の栄に浴することが出来たのは、家族・知人をはじめ周りの人の支えのお陰であり、また、町民の皆様の日頃のご理解とご協力のお陰であります。

今後とも酪農業界の振興、また馬路町の発展のために努めます。」との謝辞の言葉がありました。ますますお元気で各方面で御活躍下さい。おめでとうございます。

進化したイルミネーション（進化版）

馬路町民の皆様の晩秋から新春の寒い夜を少なからず温め、感動を与え、夢と希望に満ちた新しい年を迎えていただくのに少しでも寄与することを願い、馬路生涯学習センター玄関前の広場中央にそびえる、亀岡市名木100選に指定されている「ムクノキ」の巨木に、イルミネーションを設置して4年目。

今年は、更に華やかとなったイルミネーションをお楽しみいただけているのではないのでしょうか。



令和3年 平穏と希望を呼ぶ光

大平山砥石

馬路財産区が所有する馬路町水木原1番地の山林約173,309㎡の土地の一部に存在する粘板岩（内雲砥）については、日本刀、一般刃物の仕上げ用研磨の天然砥石であります。特に日本刀の研磨においては、世界でもここだけが唯一の質の高い砥石の採石場所であるとのこと。

その点では、正に将来の世界遺産候補地になるのでは？かつては坑道（洞窟）を掘ってダイナマイト等を使つての採掘がなされていましたが、現在は東京にある有限会社並川平兵衛商店が手掘りで採掘を行っているのみであります。今年度から亀岡市馬路財産区管理者・桂川孝裕亀岡市長と馬路財産区堤輝明管理委員長と並川平兵衛商店並川剛彦代表取締役との三者の間で、粘板岩（内雲砥）採石契約書を取り交わし、計画的な採掘計画に基づく採石とし、貴重な砥石がむやみに採掘されないようにしました。



手掘りといつてもかなりの採掘現場の様子



これは、新型コロナウイルス禍に脅かされる町民の皆様に元気を取り戻す一助となればと、「中三」さんからイルミネーション増設への寄付を受けたことから、ムクノキの巨木の周囲と、学習センターベランダにひときわキラキラと輝くイルミネーションを設置することが出来ました。中三さんのご厚志に心から感謝申し上げます。

このイルミネーションが新型コロナウイルスを退散させる「魔法の光」となることを願っています。



コロナ収束への祈りの光